

ミオヤの光

佛子の巻

14131211	他人に慰懃なれ 富まざるも幸福 他人に満足を與へよ 談話の歡喜光	10987654321	人類の三格 人格の三種 大乘佛教の終局目的 正覺涅槃 光明生活に入る心 愛 人格の因と縁 人格の主質 人格を保持する道 餓鬼格の人
26252423	時間浪費は後悔の基 勤勉は劣情を抑制す 敏速は勝ち急忙は敗る 救はれて光明の中に	2221201918171615	人を誦贊する場合 愉快の根泉は努力 常に欣々然たれ 最良の醫藥 業務より妙味を發見す 親切の満足 萬難を安忍す 努氣の香

人類の三格

先に人界に十界あり、即ち人類を通じて十界に性格を區別し人間に十界が歴然と有る事を明した。人中の十界の性格を大別に人格を三位に別る事を得。

一、非人格、二、人格、三、靈格とす。亦此三格を人類中の三類聚とも云ふ。一、邪定聚、二、不定聚、三、正定聚。

一、非人格、また邪定聚とは人類中の劣等なると邪惡の類である。之に三種あり。畜生と餓鬼と地獄の性格を非人格とす。畜生は人類中に生を受けても人生向上の行路なるを自覺せず。されども餓鬼格の如くに肉欲我欲の病的にも陥らず。地獄格の如くに邪見逆惡の方にも墮ちず。他動物の本能に近く動物的に生活したる者。

餓鬼格は本能的に旨い物を喰ふ肉慾の病的に墮し、色に荒み、酒に耽り、美を嗜み、美服に憧れ、爲に他物を偷み、又は詐偽して遂に五欲の爲に墮落したる者。又名譽、權利、財産等の欲望が昂進して、我欲の病的に陥りたるものが餓鬼格にて。

地獄格は邪見逆惡の方のみ發達し、天に逆ひ人に戻り、逆惡無道の性格。斯らの三種は惡の三等に墮すれども皆人格備はらざる類聚の故に非人格と云ふ。

人格の三種（修羅、人間、天上）
人類中全く人格具備したる類中にも亦三位に區別する。
内徳缺少して外貌に裝ふ善及び徳行を好み、又傲慢勝他の動機より善を爲すものは修羅格と云ふ。

人道の人格より道徳に契ふ人は全くの人格なり。
常識に富み人格具はり人類の標準と爲るべき人物を人中の人と云ふ。人中の天とは公明正大博愛の君子志士仁人、寔に稀に見るの高等なる最圓滿なる人格、世の爲、人の爲に徳を施し功を與ふ。斯を天的人格と云ふ。

斯らの三種は勝劣同じからざれども、人格具備の類聚とす。然れども人格としては完全なるも、進んで靈性的生活に入ることなき爲め、非人格に比格せば實に立派なれども、靈格より見れば精神生活の上にて永遠の光明を認めず劣聚なる事は免れぬ。若し靈的光明を得るに至らば進んで靈格に入る事を得。若し惡縁に依れば非人格に墮落するの憂なき能はず。故に不定聚の類とす。

靈格。此に三種あり。一、聲聞。二、緣覺。三、菩薩佛陀。
靈格の中に三位あるも、通じて靈格たることは個人我を超越して宇宙大靈と合一し靈的生活に入りたることに就て一致す。故に靈格とす。通じて大靈と合一するは同一なれども、大靈中の自己の靈が唯「體」のみ合一して無量の「相」功徳と及び「用」大不思議の働きの上に於て三人相同じからず。故に三位となす。

聲聞は真空無我を證し、小我を超えて大自然と合一し、神通自在と無漏の聖智とを以て真空眞如を證得す。然れども己れ獨り涅槃に在りて他の一切を自己の如くに度すことにつとめず。

緣覺も小我を超えて真空涅槃に入つて生死を離れたるも、斯二聖は自己のみを度して他の一切を度すことにつとめず。聲聞は他の教示に基づき自ら得道し、緣覺は無師自然に悟達したる聖者である。

菩薩と佛陀とは同一の因果の別である。

佛教に大小二乘あり。小乗教には衆生の五戒を持ち人道を行ふ。因には必ず未來に人間界に生を受く。勝妙なる高尚なる理想を以て十善を完ふしたるものは天上樂界に身を受く。四聖諦を以て真空真如を證し生死を解脱し涅槃永生に歸着することを得るは聲聞乘である。小乗教には道徳上正しき行爲又人格としては實に完全無缺なるものも四聖諦八正道を以て小我を滅し無爲眞如の涅槃を得るにあらざれば、生死を解脱することは出来ぬ。故に終局の目的とする處は生死の苦を脱して涅槃永遠に歸趨するにあり。彼の涅槃は一切の繫縛を離れたる無爲寂靜の處である。其妙境の消息は凡夫妄想分別の心を以て測る事は出来ぬ。聖者自ら證入して實驗する處なり。

大乘佛敎の終局目的も六道生死を離れ永恆常樂の涅槃界に歸着する處にあり。大乘敎中にも權實三乘一乘等に階級があるけれども、通じて云はゞ無上正覺を成じ永恆常住の大涅槃を得るにあり。正覺とは衆生の心の無明の眠に生死の夢を見つゝあるを明然として無明の睡より覺めて本覺の光明が圓かに照して一切の眞理として照見せざるなきを云ふ。涅槃とは相待無有生死を超えて絶對なる宇宙太靈體と合一し永恆常住の靈界に安住するを云ふ。

敎祖釋尊が六年勤苦の後、摩訶陀の正覺道場菩提樹下に於て臘月八日の曉、明然として正覺を成じ、涅槃常樂を發悟なされた。從來の生死の夢醒めし妙境界は正覺の旭東天に昇りて、普く天地に照耀するが如き心靈の状態である。

釋尊が正覺の上に常樂界に證入して實驗せる靈相を説示したるが即ち華嚴經である釋尊の本體は舍那圓滿の如來身、相好光明、普く法界を照して遺すことなく、住處を蓮華藏世界と云ひ、全宇宙を盡して微塵許りも淨淨莊嚴不可思議の境界にあらざる處なし。無量無數の法身菩薩の爲に微妙の法を説いて化益を施し給ふ。如斯の靈妙境界は永遠に滅する事なく常住に法身の菩薩を教化して止むことなしと。

佛陀と菩薩とは因と果との位にして大菩提心を發して上菩提を求め下衆生を化するの願を發し、智徳圓滿を期す。一切を度して同一の妙果を得しめんとするの願を起し、此が實現の爲めに最善の努力をし、志勇猛精進にして忍辱、精進、禪慮、智慧、等の萬

善萬行を以て終局に達せんことをす。

菩薩が初發心より終局の佛果圓滿に到達する階級に五位あり。十信、十住、十行、十回向、十地とす。十地の願と行と成じて究竟圓滿に體達したるを妙覺即ち正覺を成じたる佛陀である。菩薩が初めより佛果に至る階級を月の盈缺に喩ふれば、凡夫が人生に永遠の光明を毫も認めぬ人は晦月の様にて、初めて如來の靈光に感觸し一分自覺を得たるは新月にして、漸々に月が増進して竟に圓滿なる満月となるは即ち菩薩の満位に達し、智徳圓滿なる佛位に到りし姿である。菩薩は即ち佛子である。亦法王子とも云ふ。頓て佛と成るべき階級である。

大乘佛敎の敎ふる處によれば、十法界の中に於て三惡道と三善道との六道法界は靈性未だ開けず。宇宙の大法に順するを知らず。生死に流轉して止むことなし。故に迷妄の凡夫と云ふ。聲聞と緣覺とは生死を脱すれども、未だ圓滿なる終局永遠生命大自由の位に到らず。故に十界の中唯菩薩のみ大法に則り、靈性開發して光明の生活に入り、現在を通じて永遠の生命に入り、自ら人生の眞理を自覺し、而して亦他人にも覺せしめ、自覺して光明の生活に入るが故に其行爲も又向上的に佛果圓滿を期して此に向て進趨す。

經に「一切衆生本法身より生じて法身に還らざるなし」

大乘佛敎の終局目的

大乘佛敎に敎ふる處の人生の終局目的は正覺を成じ涅槃を得るにあり。正覺とは自己の靈性を開きて眞實に自己を覺了したること、即ち心の闇はれて本覺の日輪が現れ出づること、心靈の日光で普く萬法を照して誤るなし。

又他の凡てに自性を開かして眞理に契ふ生活を遂げしめ自他共に光明的行爲を以て向上せしむ。

涅槃とは凡夫の生死を超えて永遠の生命に入りたること。故に釋尊の聖徒らが釋尊の指導により修行卒業の曉には有餘涅槃に入る。有餘涅槃とは有餘依は此精神が依止する形態を云ふ。假令身體は此儘なれども心靈は生死を離れて絶對永恆の大靈と合

一し永遠不滅の生命となり常住安樂の状態と爲る。然れども肉體のあらん限りは精神は無爲安穩の極樂にあり乍らも肉體は生活のつとめ 又寒熱飢饉の苦は免れず。其れを有餘涅槃と云ふ。言ひ換ふれば肉體の儘ながら神は極樂に安住するの謂である。

彌 肉體の生命劣等 肉體の殻を脱して心靈が極樂に本に歸し常住と安樂と自由と清淨との法性常樂の身となる。之を無餘涅槃と爲す。

正覺涅槃

正覺涅槃とは自己を本としての悟道的哲學的の語で、宗教的に云はば無量光無量壽の中に救済せられたることである。正覺と云ふは人の靈性開發して廓然と大悟の目醒である。目醒めて見れば大日光は六合を照して萬境現前す。

靈性目醒めて見れば本覺の無量光の日光は心靈法界を照して一切の眞理は了々々現前す。譬へば日光と人の眼目との關係に依て天地を明に見るなれども、自己の眼口の方を本として正覺となすは聖道家である。太陽の光明を本として光明獲得と云ふは宗教家である。又自己が小生命の生死を脱して永恒の大生命に入るを涅槃と爲るが聖道家で、生死の凡夫が如來無量壽國に歸入して佛と共に無量壽と爲ると云ふは宗教的である。

此の如く大乘佛敎の宗教的方面は人生の歸着する處は吾人が現在の自己は無明心の間に人生の歸着も自覺するを得られぬ凡夫である。依つて例へば太陽なくば世を見ること能はざるものゝ如く吾人は心靈界の太陽無量光如來の光明を仰ぐにあらざれば眞理に適ふ生活は出來ぬ凡夫である。依つて一に靈的日光の明ることを求む即ち信仰である。

信仰に依つて光明獲得し光明生活に入る。從來の生死の凡夫も全く如來無量壽の中に歸する時は一滴の水も大海に入て一味に歸する如く我が此生命が此まゝ永恒常住の無量壽と歸したのである。

無量光の中に入るを我らの光明と云ひ、無量壽と歸したる生命が即ち生活である之を光明生活と爲す。然らば即ち吾人の心光は無量光中の一分に、吾らの生命は無

量壽と合一す。此無限の源より此身に徳徳を實現的に行爲するが即ち人生の歸趣である。已來は通じて大乘敎に由つて一應の理を説話致したり。是よりは光明生活に入る實地宗教的方面より話せんと欲す。

光明生活に入る心

大乘佛敎の人生を指導する趣旨は正覺と涅槃を得せしむるにあり。之を宗教的に云はば光明靈的の光明を獲得し永遠の生命を信じて光明中の生活に入るにあり。此の大靈の光明中に歸入すれば永遠不滅の生命となる。之の心靈界の太陽を無量光と云ひ其安住する處を無量壽國となす。故に宗教生活に入るには先づ心靈界の太陽なる如來の光明の實在と實力とを信せざるべからず。無量光如來は精神界の太陽である。

太陽のエネルギーに光熱化の三線ある如く、如來の光明に三能あり。智慧と慈悲と靈化との三徳あり。智慧は心を照す光線である。太陽の光線にて世界のものが見ゆるが如く、智慧は心の世界の眞理が見ゆる。慈悲は太陽の熱線にて萬物を温る如く如來の慈悲は人の感情を暖めて苦を抜き樂を興へて有難き樂しき生活として下さる。靈化は太陽の化學線が地球の生物を合して生物を活かす如くに、如來は人の意志を靈化して養良なる人として聖意に叶ふ働きを作さして下さる。

如來が十方の心靈を照して攝取同化し給ふ磁力を如來本願力と云ふ。本願力とは一切衆生の子等を御親の恩寵の光を以て闇と惡との心を悟と樂と善とに同化し如來なる親の子となさる聖意を云ふ。

經に彼佛光明無量照十方國無所障礙是故號爲阿彌陀。又た彼佛光明遍照十方世界念佛衆生攝取不捨。又た是故無量壽佛號爲無量光佛、乃至超日月光佛。其有衆生遇斯光者三垢消滅、身意柔軟、歡喜踊躍、善心生焉。

如來の大靈光は常恒不斷に照して衆生の上に及ぼし給ふ事を信す。此如來の光明と合一融合靈化する人の心意を三心とす。三心にして始めて如來の心光と合す。經に十方衆生、至心信樂、欲生我國、乃至十念、若不生者、不取正覺。

此の金花は如來が迷没の衆生を濟度せんが爲に法藏比丘と身を現じ、四十八願を立て無明罪惡の衆生を如來と同じ光明の中に安立せしむる道を立てたる第十八願の意にて、意は如來の心光は衆生の爲に照しあれば衆生の心に至誠心を以て我を信じ我を愛し我國を欲望せよとの願意である。

- 智慧——信
- 慈悲——愛
- 聖意——欲

宗教的關係の神人合一、三密融合等、又光明同化等の語を以て心理状態を述る。

愛

如來は大慈悲者である。衆生を一に愛する慈悲の親である。親は無上の愛を以て衆生を寵愛し給ふ。故に吾等も凡てに超えて如來を愛樂するにあり。大我なる如來と小我なる衆生との相愛親和に親密なる因縁によりて衆生が聖き生命聖き子と生るゝのである。

如來の慈母は宇宙本體から愛の表現として慈愛深き温容を以て現はれたるが大慈悲心である。如來慈悲の相好は慈悲心の現れである。其相好が即ち大慈悲心である。我等が如來を深く愛慕する心に現はれたる温容が即ち子を愛する慈父である。我等がまた眞實に如來を愛する眞情あれば必ず慈悲の面影を憶念せざるを得ない。眞實に愛し玉顔を憶念する時は面影を見ざるを得ぬ。眞實に如來を愛する吾心を客體に表現したのであるが、如來我心となりて我如來を二字不明かは解らぬ。

如來の慈愛に觸るゝ時は慈愛に充され自己が即ち愛化し而して自己の圓滿なる調和を得。總ての賤劣なる物を愛せず如來を愛慕し融合美化したる情を以て見れば總ての人に對して相互の間に融和す。

如來は大慈悲心者である。經に佛心者大慈悲是也と。如來の生命は大慈愛である。例へば太陽は地上の萬物に對して愛を注いで居る。太陽の愛に依つてすべては活ける如く衆生の心靈は如來の大慈悲愛により絶對的生命が活きる。

我等の心靈は大なる慈愛に生きる。愛とは我らは如來大慈愛に依て活くる故に我等の生命も即ち愛である。若し人愛なくば生命なきなり。太陽の熱の如く如來は暖温なる慈悲を以て一切心靈を温暖なる靈生命として活す。我等が肉體の生活する間は身温あるが如く、我らの靈の生命に愛てふ靈的温度備はれり。

タゴール曰く、本來人間は自分の奴隷でもなく亦宇宙の奴隷でもない。人間は唯愛に生きて居る。人間の自由完全は愛其ものの中にあると。又人間生活の目的を遂げる人々とは、人と自然との融合を得て、神と共に合一し、そこに安心立命を得ることの出来る人々を云ふのである。

天國は我物でない、我を離れたる衆生共有の調和なる心靈世界。
愛。我如來を愛す。如來は何處に在す。如來在さざる處なく如來は絶對無限である。我々は如來の愛子である。吾らの靈性は如來の中に投歸没入して、亡して仕舞ふのではない。我ら個人の靈性を通して如來を見る時絶對無限の如來を知見することが出来る。絶對なる如來は一個の靈性の中に溶け入らんとしてをる。

如來を愛するものは無限の如來我にあり。如來我に二字不明れて來るが故に我心は如來と融合す如來の慈愛は最も温かに最も安らかなるが故に如來と融合した吾心は實に安にして且つ樂し。即ち法悦に充滿せらる。吾人の喜びは吾人が心中に存する如來の賜物である。

人格の因と縁——一心十界

人の心は極めて複雑なるもの、此の一身中宛然一大帝國をなせる觀あり。其の帝國内に帝王大臣百僚より庶民に至るまであり。

野心、情欲、謀反、利害の觀念黨派ある等紛々擾々たるが如し。謀反の民不軌の臣ありて存せり。若し之を放任せば人心の帝國は宛然無政府時代の姿となり、人格全く消失し去り、自我は煩惱の奴隷とならん。是れ飢鬼と畜生にして、全く人格燃盡せるものは邪見逆惡即ち地獄に墮せるなり。

因に資因と習因とあり。因は自己の固有性。資因とは遠くは天賦近くは父母の遺傳に禀けたる先天的素性。習因とは周囲の刺激によりて形成せられたる習慣性即ち第一の天性なり。其の因たるもの其の本源を原ぬれば因縁の所成たらざるはなし。天性一大因性は超人間たらん。然るに其の父母また祖先より外部の境遇の縁に規定せられて因縁相待つて其の子に父母は遺傳す。故に同じ父母の生む所の同胞たりとも其の因と縁との關係は決して單純なるものにあらずして最も複雑極りたる因縁によりて形成せられたる結果として生れたるものなれば其因縁に墮つて所生の同胞同一ならず。

天賦の資性と云ふなれども此には父母また遠き祖先よりの因縁の相異りたる關係によりて形成せられたるものなれば之を。

原因遺傳として持ち來るは即ち因なり。モンテス ユー氏が曰く、人の天賦の資性上全く除去すること能はざる傾向を有するものあり。然れども教育によりて之を矯正し利導するは絶對的不可能事にあらずるも、全く之を改變することは殆んど不可能に屬す。教育の力之を如何ともする能はず僅かに屏息し隠蔽するに過ぎず。天賦の資性は全く根治すること能はず。云々と親は其子に其の性質を長短共に遺傳す。

人の血族累代に至りて其の祖々の性種々の因縁によりて、複雑なる諸の成分を形成して、身體の強弱より其の性質性癖に至るまで數累代に因縁を以て作られたり。其の因縁の關係は實に複雑にして容易に判すべからず。然れども善惡ともに其の祖に有したる弱點は早晩其の子孫の上に顯はるるに至らん。

其の要素質が伏在するとも身體の發達に隨ひて或る時機に開發するものなり。然れども其性質傳せる性分ととも本と因縁所成のものなれば、また強度の資縁を以て之を矯正する時は何ぞ改善せざるものならん。

然れども人の遺傳的物質的性分の其の根本的源底に於て、超人的心靈の性伏在して因縁を待つて内發的に發動せんとするの勢あり。此ぞ人の道徳的理想にして向上せんと欲する心なり。人の良心是なり。

人の靈性は因縁所成の性質を指導して至善に向はんとす。内に靈性あり、外に先質

の靈性より發現せる光なる教育あり。

人性の原因たる遺傳には種々の弱點をも混じりしなれども、また祖先代々の向上し來れる美質に於ても同情廉恥の如き是非正邪を分別する如きの人道的性質の要素已に具備せり。然れども人間は他の動物に比して本能的にあらずして教育を待つて完全する。

それは金石の類にしても自然に其の美の具はれるものとまた琢磨を待て初めて其の備はれる美質を發揮するものとの別あり。寶珠寶石の如きは琢磨の功によりて光輝を放つ。人は最高等生物にして寶珠寶石に比すべし。自己に有する性能が教育訓練によりて發揮すべし。

人は原始の人類より數萬代に亘りて外界の事情の縁によりて進化發達し來りしもの精神的に勝を得たるの結果。他の動物を凌駕して獨り超然として振群たるは、自己と外界即ち社交的となりて彼此相待の關係の發達せるによりて、各自が競争的に進化し殊に勝れたる精神のすべてを刺激して發達せり。

人の精神原因には外界の刺激によりて發達すべき可變性また受養性存在せり。有機組織にも心理能力にも周囲の事情によりて形成せる結果に於て其の趣を異にする。原因は石材にして縁なる教育訓練は彫刻の如し。故に之を彫刻のいかにによりて種々六趣何かに形成するに至る。之を形成する外界の縁は種々多なるが故に千態萬態其の精神狀態に於て或は進化し或は退歩し、此に於てか六凡善惡無盡の生物を變作す。

原因即ち過去また父母より稟けたる性質は材料のみ。四圍の境遇の縁を施さるるに依りて變化す。本より其の材料に於ても善惡何れにも傾き易き性能を具備し其の稟性の因に相應する處の縁なる職業また教育等を施す時は適するが故に成し易し。原因の性は外縁によりて其の影響を及ぼさるべし。

一、風土的助縁

人は生れて幼年より其の身體にも心性にも外界の物質的影響を被り、其の風土また風俗習慣大に其の面目を變ず。氣候空氣食物等の爲に影響を受く。例へば田舎に育ち

たる小兒は健康なる多く、都會の子供は柔弱なり。日光直射と新鮮なる空氣を受ける人は健康にして其の反對なるものは不健康なり。また風土の影響は人の精神にまで及ぼすこと大なり。學校と社會と家庭との教育が其の子弟に及ぼす處の助縁もまた甚だ力あり。其の家庭に於て其の父母が日目の身の行爲と口の言語と意の思想との所作、行住坐臥一舉一動に至るまで悉く其の子女に對する模範たらざるはなし。少年の心は十個の土の如し。父母の模範に隨て形成す。

六道四生其の模範に由て成す。

また慈母の温なる愛の手に養はれたる子は精神暢伸し氣象快活に、繼母の虐待を受けたる子は心屈して意地悪し。寵愛過度を過ぎたる子は息は我儘にして自分勝手なり。同胞多くして不自由勝に育ちたる者は相互に愛深くしてまた貯蓄心に富めり。

如是體——人格の主質

體とは主質。色心を名づけて體とす。

自我が人格を造る主宰自我一切智力感情意志を主宰し統一する處の主質なり。精神と身體とを合して一體たり。「性」は精神の内の生活の特殊の種性「相」は精神の外的表状、兩面を綜合し統一したる全體性には知に傾き感に強き傾きあるも其の全體たる自我は自己の偏せる性を矯正して中正を得んとつとめ我相の上に表情をも改め正さんとするは主宰なる自我なり。人格の主幹は「體」即ち自我なり。

人の精神は自我の理性と生理的の欲望即ち人は高等に發達したる理想とまた一方は動物的生活の心理とを合一したる全體なり。

スピノーザは理性と感動の相反對せるを、アルフは高等欲望力と下等欲望力との反對を論じ、カントは現象的人間と實體的人間の質的理性と利己的性癖との反對なるを教ふ。歸する處、人には精神には自由なる精靈と動物的欲望との兩面を有し、相反對せる性を以てをる。なれども自由なる精靈が力強くして自己の利己的即ち煩惱を支配し制裁する力があれば人格具備せる人にして私欲即ち動物欲に精靈が支配せらるゝようなれば人格墮落して謂ゆる三惡道の資格たるものとす。

或る佛國のカセスは人格を組織する六要素として人間、人生、良心、品性、意志、自由之を具備する者は人格と人間は本不完全なるものなれども完全に達せんと欲する向上心あり。完全に達して人間の價値あり。法もなく義もなき生活は劣等動物なり。人は天より知と徳との武器を受く。何ぞ己が獸慾を制せざる。

人が秩序儀禮を解したるは天の寵兒なり。人の身は脆弱なれども思考によりて尊きものとす。人は富貴慈善なくも正義と公益の爲には盡辭せざるべからず。人は勇進して人格を獲得せよ。進歩發展して自己の本性を研く。

人に道德的天職あり。自己の理想を追求し其の劣情を制して理性に服せしむ。自己の自由を以て天下の最大美觀は君子の逆境に在ること、尙進んで美觀たるは君子の來りて之を慰むること。

人生の最大目的は吾が靈性を發揮するにあり。知識と道德と能力との發展なり。人生一瞬間なり。この瞬間に於て永遠不朽の大業を企つるに足る。長壽者とは年數にかはらず能く人生を覺りたる人を云ふ。

人は働く爲に生れ來れり。人生を能く満したりとは有爲なる業と人間の義務をよくつくしたるを云ふ。人生を安んせしむるは行ふ事の正否にあり。義務を盡せば一種の愉快生ず。人生も正しく使用せば満足を感じず。人生に眞意義を與ふものは精力主義。奮闘精勵實行なり。自殺は人生の強盜なり。

良心
良心は天の命なり。神の言なり。胸中の神なり。良心は神聖なる本能なり。人の指導者なり。善惡の判官なり。最善最美の道德律なり。良心は正理の脈搏なり。日々鼓動して吾人に訓告す。良心は惡を識別して惡を避け、良心と共に行くものは安心なり。

品性
品性は完全圓滿に發展したる意なり。品性の力は意志の力の蓄積よりなり。能力は寂境に養はれて品性は人寰に於て養はる。個の意志を強めるものは反對なる努力な

り。勞働は品性の學校なり。品性は知力より勝る。品性なきものは人にあらず。

意志

權能の王なり。此の命によりて行爲す。知識をも支配するものは意志なり。人の榮は正しき意志にあり。意志は他の衝動を支配す。自由の決定も意志にあり。困難にも己を研く材料とす。知識は人生を燈し明す。意志は足なり。意志は善よりも強きもの成功す。惡を避け善に進むは意志の力なり。意志は健強ならば成巧をせざるなし。

自由

天は汝に與ふるに自由を以てす。一切の束縛密桎梏を脱して不羈獨立せよ。上天下地汝に一任す。自由の權なければ人は選擇も取捨も忠實も仁愛も爲す能はず。自由の第一義は自由を尊重するにあり。自由なければ道德も義務責任もなし。自由を放棄するものは人格を放棄するなり。自由なきものは人にあらず。人の人たる所以は自由と正理との合調にあり。自由の魂は法を愛するにあり。自由なければ世は器械のみ。

人格を保持する十二要道

理想

人は其の理想に向て進行すべし。理想に對する向上心は自己を奨勵し鼓舞し活動せしむる働きなり。人格のいかんは理想による。

真理

真理は人の精神を照す光なり。神聖にして犯すべからず。いかなるものも之に反抗する能はず。真理は神なり太陽なり。真理は神の精神にして我が精神に照せる一切の道德權能ここにあり。真理に依て己を正す。

教育

教育は人生の光、能く世界を明くす。人として教育を要せざるはなし。身體と精神と行爲を進ましむるは教育なり。禽獸の域を離れて社會的生活をなさしむるは教育なり。教育は人を真正の人にするにあり。

學問

學問は短時間に數千代の經驗を知る。學問は吾人の身を以て世界の無限に逍遙す。三世に亘り十方に及ぼすは學問なり。學問は世界の知識を個人に與ふ。是天下共通の寶なり。萬人と幸福を共にし萬人の知識を聚むるは學問なり。學問は幼を養ひ老を慰め順境に輝き逆境に慰安を得。學問も良心を離るれば精神を失ふ。

義務

義務は人の道を行はしむるものなり。義務に従つて行ふ者は人にして情欲に従うて行ふものは傍生なり。義務は沈鬱、煩悶、失望、落膽を癒す良藥なり。義務は人生健闘の良將なり。いかなる苦にも力を與ふ、義務によつて苦をも樂とす、義務を盡したるほど樂きはなし。

規律

規律に従うて生活するものは天意に従ふなり。父子兄弟五倫を全うするは是秩序正しきなり。規律は人格を失墜せず規律なき處には人倫もなし。

正義

正義は人格の骨。仁愛は肉なり。正義の概念を以て盡すべきことを盡す。正義は人道を進行するの目足なり。正義は光明に向ふ行路なり。

勇氣

真正なる武勇は大量の美質。人格を保持する武勇、煩惱を退治する克己の勇、人格道德を保持する勇力、惡魔を征伐する勇氣、利己に克ち、遊惰に克ち、一切の誘惑に勝ち、不義に反抗し、過ては改むるに勇なれ、墮きても起るに勇なれ、艱難困苦に勇みて進むは勇なり。煩惱に克ち本心に從ふは勇なり。

堅忍

堅忍せずして光ある人あるなし。人生は忍んで磨かせんが爲めに諸の苦難を下せる哉。堅忍の人には不幸なし、不幸の裡に自ら幸福を感ず。忍ぶ者は勇者に優れり。心を制するものは城を落す者に優れり。堅忍は大勇なり。大業は堅忍の結果なり。持久

種を播き植え耕すは良果を獲んがためにあらずや。終りまで持續せよ。持久は人格の生命なり。堅忍は持久にして終局の勝利者となりぬ。大事業は力を持ちて遂るにあらず、堅忍持久の意志にして遂行す。根氣強きもの勝利を得。いかに困難なる事業にても成巧するまで持續する時は成功せざるものなし。いかなる勇者も根氣強きものに叶はず。運は根氣強き處に必ず開く。鳴かずんば鳴くまで待てよ、必ず聞くことを得。好結果は持久の賜なり。

尊敬

獨尊自重を以て萬物の靈長とす。獨尊は傲慢と反す。自を持ち己が良心を尊んで私欲を挫くが故なり。人は家居して父母を敬ひ、群居して萬の人を敬ひ、獨居しては己を尊敬せざるべからず。

自我を尊とみ私欲を仰へんが爲に人を尊敬す。人格を失墜するは尊敬を失ふが故に自ら賤しめ後人之を賤しむ。人は形の生命を尊重すると共に自由を尊敬せよ。

榮譽

眞の榮譽は人生奮闘の勝利者の月桂冠にして天よりの功勳を授けられたるもの、眞の榮譽は眞理を把持し、正義を遵奉し、人に對して仁、己に對して嚴、萬事に理と法とを見、天の命する處を完全に遂行するにあり。

人格組織

人格を組織する素質稟性、原因と習性によりて成り立てる精神合成物、此心力の最もむるを占むる。

天上

偉大なる人格の精美は無限天より個體なる人格の靈種として、かし、而して人格建設の力とし、彼らの意志は天の権化なれば活力生命として人間界に天の使命を齎して人道を開きし者なり。英國の俚言に強健の意志の人と大瀨とは共に自ら道を開くこと。高壯快濶にして、秩序正しき公明正大なる者は自己の爲に天上に昇る行為の道を開くのみならずすべての世の模範として天上に進むの意を示す。一舉一動獨立自守なる標準は自ら萬人の尊崇する處となれり。彼らが言行は太陽の赫々たるごとく、其

の言行の光に照さるる時は、孰か己が不正を正さざらん。ウェリントン、フランクリン、諸葛孔明、菅原道真の如きの此の模型に入る。

偉大なる人格の經歷は人間精力超越の記念碑とも見るべし。偉大なる人格も此の生命に限りあり。然れども其の思想と行為とは後昆に遺布して不朽の性を有せり。

精力ある彼等の一生の精神の力は長く持續して精神界の一大勢力を刺激して後昆を扶助す。未來の青年の品性を改良し人格の意志を建設せしむるに足る。彼らの道德的勢力の光火は世の有爲なる人士の精神に點じて展轉して世の道德的、光明となれり。

彼の偉人グラットストン翁、ハーマーストンを評して予は信ず意志の力、義務の觀念不屈の決心ありたればこそハーマーストンは吾人が爲に義務履行上の典型たりと、彼が一大品格に認むべき特點は其の憤怒激昂の情に驅られざるなりとハーマーストンの精神に輝きつゝある火光はグラッドストンに點じたるにあらずや。

然も其の光火は唯身の一代に止まらずして永遠の世の燈明たり赫灼として光輝を發したり。彼らの光榮なる遺産は過去と現在より將來に充分に死せり。

其の精神と行為とに成れる人格なるものには永しへに有る性質を帶ぶ。其れ故に偉大なる精神家の精神は千古に亘りて人心を支配す。

人の品性に天然の領分と(因)人為的の領分(習因)とを識別せよ。天然の領分即ち因とは例は血性男兒と生るれば終身血性男兒、神經質乃至多感性等又それに終るべし。

然りと云へども人は天賦の素質に就てさまで失望すべからず。地はいかに荒廢せりといへども、耕して以て收穫豊饒の地とならしめうべからざるにあらず。品性に於ても人の鑄筆を下しうべき領分あり。是人爲の領分なり。之を奮腹ならしむるは人の自由なり。換言すれば人は其の資性のいかに保はらず其の品性に適意の印象を刻みうべきものなり。彼の名工を見ずや、如何なる木片といへども之を彫刻し、巧みに己が理想を實現せしむるにあらずや。

人其の品性の上に彫刻すべき理想あり。

一、潔直なる良心(光)

一、潔直なる良心(光)

一、潔直なる良心(光)

一、潔直なる良心(光)

- 二、健強なる意志(威力)
- 三、優美なる雅量(花)
- 四、儼然たる威儀(實)

餓鬼

肉欲餓鬼

肉慾ほど人を奴隸にするものなし。人耽酒嗜味口腹の慾に牽かれ、また女色の爲に奪はるる時は、人格を墮し、其の眞勇を失ひ、榮光を喪し、また健康を害ひ、終に自ら人格を全く消却して餓鬼道格と化す。肉慾に奴隸となりて自ら甘んじて其の壓制の下に屈伏し、堂々たる男子自ら之を恥ぢざるに至らば良心痴鈍、志氣陋劣野卑、人格を支ふべき其の力を失ひ。人間としての理想の光もなく、人間として行ふべき勇氣もなく、優柔不斷正に食色の鬼となり、終日飲めども飽くことを知らず、終夜色に荒みて厭ふことなく、柔弱にして人格の氣骨なく、ついに人間の其の性格體力ともに人間の資格を全滅し、五慾の奴隸肉慾の餓鬼と變ず豈恥ざるべけんや。

天は日星の行道と人生とを同じく規畫したるものなり。二者の調和は洵に珍し。此の和合を破るは健康にも勤勞にも大害あり。夜間遊樂遊惰怠に耽りて深夜尙眠りに就かざるものは翌朝日天に中せんとするも尙まだ床を出でず漸く眼を擦りて醒起するに當り眞面目なる業を執らんとするも意の如くならず、是天の法則を破り晝夜顛倒せる罰なり。

吝嗇奢侈、社會の不幸主として我儘勝手より起る。一方は富を蓄積せんとするの貪欲と他は之を浪費せんとするの妄舉、大企望と大情慾は富を蓄積するも國民の幸福は從、國民の富は主となると、高度の利益を最上の善と見做し、如何なるものを犠牲にしても金錢を神とし、貧民の爲めには今日の文明は貧者には未開のままに止る。彼らは働かざるひ飲み眠り以て其の生を送る。明日來月來年に對して何の準備をなさず。北米印度人と同じく文明の罪惡のみを利用して、文明に伴ふ恩惠利益を使用するを知らず一生不確定なる不運の日に一大準備をなさず。

人生の不確實今日の健明日の病、十萬の英人中四分の一は十五に至らず、二分の一は五十歳、九十歳百歳は十六人と。

人として健康の法則を理解し、病氣不慮の事件天折の如き結果に對して準備をなすこと當然の職責なり。人間は何程もがきたりとて自然の法則に反して責罰を免れざれば力めて注意せよ造化は人が無智なればとて自然の法則を變更するを許さず。人間は心智の賦與せらるるあれば之が使用によりて自然の法則を理解するを得べし。然らずんば苦痛悲哀の結果を被る。

專制政治と主人の殘忍も之を罪惡的貪慾の殘忍に比すれば極めて寛大。不幸不運に墮つものは罪皆已に出づ。

怠惰、浪費、不制慾、不品行の結果今日主義の生計は考案もなく規律もなく先見の明もなく稼ぎ出すものは悉く消費し將來の準備なく、自ら困難に陥る準備をなす。

現在の中に準備となるが故に必ず將來を犠牲に供す、明日死すとも今日飲まんどうす虚榮心

世間の稱めを得ん爲に體裁を張り、自己の尊厳を博せんが爲に一身を危くするもの流行的生活、ハロー曰く吾人は往々にして馬車の缺乏より自殺を遂げたるもの聞く、パンの一片なき爲に自殺したるものあるを聞かすと。豪奢を事とする、負債者は自己の自由を拘束す。泰然として債主に向ふ顔なし。

名譽は求むるものを嫌ふ。名を求むる勿れとは自己品性と行動の發射のみ。爲すべき義務を完成し勵精刻苦自己の業務に精忠なれば求めずして來り、唯虚名を求むる人は着實忠誠の人にあらずして幻影的のものなり架空的のものなり。

希臘のモーレの神、片手に船の舵を握り、背に羽あり、片手に玉を執り羽あり故に自由に飛び、船持つが故に自在に向ひゆく空にても海にても自由自在、玉は財福を表す、此の神を念じて僥倖を望むものは即ち餓鬼に墮す。

婦人が自ら苦勞と心配と骨折ることを避けて夫の手に絶り肩に荷て贅澤に虚榮を満足せんと希ふ如きは此の類なり。

人格的精神に缺乏する者、意志に人格的素質缺乏の故に餓えたるなるが故に道德的心に充ちたるものは餓えず。

懶惰

聖ホーロ曰く「働かざる人は復食ふこと能はざるべし。」人の生活すべき労働に對して不平不満を抱くもの、怠惰漢ほど社會の邪魔物はなく、たとへ彼らは死すとも何人にも憎しませず。

怠惰は悪魔が導く暗黒。

怠惰は多くの悪を教ふるもの、閑居するもの不善をなす、之が好例なり。水静止して流れざれば腐敗す。海水の腐敗せず波浪澎湃須臾も静せず。働かざる人所謂怠惰の人は少しく天然に學ばざるべからず。然らざれば其の腐敗は必せり。怠惰は精神の死なり。活ける人の墳墓なり。萬惡の掃溜なり。勤勞は聖人を生み怠惰は惡人を生む國の有之與廢も勤勞と怠惰による。設令身富貴なりといへども若し逸樂遊惰に日を送らんか、社會に生存する資格なきなり。社會に無用の人間なり。富貴は怠惰を認可するものにあらず。富貴にして怠惰なるものは常に常人に於て社會に裨益せざるのみにあらずして後代に無能の兒孫を遺して社會に永久の厄介物を遺すべし。

怠惰の癖ある學生は多くは皆放蕩兒と化するなり。才能あるものは勤勞によりて益其の才能を發揮し、資産あるものは勤勞によりて益々其の資産を増す。怠惰が氣力を殺ぎ體力を衰へしむること甚だし。勞力の過度は時に疲勞あるも身氣を疲弊せしむるものにあらず。怠惰は身と心とを疲弊せしむ。元氣爲に衰へ知力に鈍く萬事無資格の人間と化す。怠惰は無能者を造る。早く衰老する。人は天然に活動的動物。一日も寝ず能はず。怠惰は全然無爲として見るべからず。善事に對しては無爲なり惡事に對しては大に有爲なり。怠惰の無爲は無爲の最も惡なるもの。怠惰人の働きは惡を働く消閑の戲を弄ぶ如きは怠惰の上乗とも云ふて可なり。

怠惰の兒童は斷じて發達せず。遊ぶのみを知る。人生は價重し。光陰は貴重なり。之を無爲遊惰の裡に送るは何たる痴漢ぞ。貧賤に陥り衣食に窮し果ては憐れ人に乞ふ是怠惰の結果なり。

遊戯宴會演劇及び其の他無用の競技等は皆青年の才能を空費せしめ青年の身心を汚毒し其の一生を誤るに至りては此の種の遊樂より害毒なるものなし。

情眠は死なり。情眠の一生は人生の日に數ふべからず情眠は活動生命の中止一種の死と見て可なり。情眠を貪る人は長壽なりとするも極めて短命なり。

我慾財慾病的

我慾の爲に他を殺害し、他の物を劫奪するが如きは即ち地獄の業なり。餓鬼は刑法的犯罪にあらざるも道德的犯罪の點に至りては同じ。

餓鬼の我慾の性質に二種あり。陽的我慾と陰的我慾となり。甲は強剛我慾の爲め他の財を奪ふも陽にして敢て隠さず物を脅迫して物を奪ふ、即ち強盜的にして陽はに他の財物を奪ふ。乙は竊盜的にして陰に他の物を劫むる如し。剛なるものは夜叉羅刹勢力の鬼神の如く人の財を劫めて己の富をなす。剛は怖ろしき相、乙は陰に隱密に他の物をかすめて己を富ます者、甲は怖畏犂猛の相、乙は可憎卑陋なる相、吝權謀術數を以てまたは阿諛諂曲を以て人の甘心を求め己を利用するもの似偽物を賣りて暴利をむさぼり暴利を以て金を貸し若しは陽に若しは陰に人の財を横領して己を富まし、主人の財を劫めて富を作り、後見人となりて幼者の財を劫むるもの、權謀術策を以て他人の財を取るもの、阿諛諂曲人の甘心を買つて利を得んとするもの、賭博等の賭事を以て作りたる財、他人に勞働の分を掠め取て富をなせし人、吝身王公の高位ありて卑吝賤むべき守錢奴あり。豪富の主人吝嗇にして若し一錢の損失ある時は己が生皮裂かるるが如き感ありと、紫袍金襴を以て身を裹める餓鬼あり、金殿玉樓に在つて神は鬼界に住する貴公子あり。

數多の勞働者の汗膏の分を掠めて己が華奢の料となすあり。人の財を横領して己を富まし賭博を以て財を造りまた權謀術策を以て家を富まし阿諛諂曲人の甘心をかつて利をはかり主人の財をかすめ後見人となりて幼者の産を掠むるが如きすべて不正横道に己が我慾を逞しうするものは皆餓鬼性格なり。

似偽物を賣り高利を貪り、身屢屋に栖むとも心に不足不満なるものは即ち餓鬼なり。高位に在りても其の心卑吝なるものは即ち貧賤なり。

慚念にして自活する能はず自殺するが如きは人格道より自ら墮落して鬼道に陥れり。他人の財を強竊盗によりて奪ふは地獄なり。

肉慾の爲めに衛生を害し道徳を破るは是れ鬼道の業なり。營養生殖は生理の自然にして自然に適ふかぎりに於ては敢て罪惡と云ふべからず。然れども此の營養生殖を快樂の如くに見なしてついに爲に生理上の害をなすに至らば罪惡たるを免れず。

字錢奴

守錢奴の唯一の快樂は貯蓄にあり、貪欲者は黄金を以て偶像となし、其前に九拜す。彼は消費せざる富を蓄積し他の浪費者のために濫用せざるの餘地をなすにすぎず。

體裁を張る。他人より尊敬的人物と仰がれん爲め力一杯張る。尊敬却て自尊心を没却する衣服を偽善體裁を造れば足れりとす。ウイリアム、ラムフル曰く「自己にありもせぬをばあるらしく見せかけ所有せざるものを何か所有せらるしく力むるに汲々として心安せざる人はすべて不道徳の手下」と見せかけ主義は尊敬を受けん爲の美

服美宅虚偽不道、彼らは一躍して高位地をば欲し、主として卑劣の手段必死の方法を辭せず、體裁を粧ふに奮闘し中に在て上を粧ひ其趣味を汚し、品性を殘害し心智を下賤にし不道徳の禍根は外形を修飾するに外なし。上級の風習に倣はんと力む。

之を持続するに總ての危険を冒して顧みず浪費奢侈に耽り、名譽を失ひ破産零落一步も進み難き欺騙詐偽虚妄を以て商業取引を亂すは外形修飾を力むる病なり。

空想餓鬼

人人格を豊富にすべき素質に於て缺乏する時は、其の精神空想的餓鬼道に墮せん。人間の天職に竭すべき義務感情なく、一定天職に對する目的なく、唯空想に耽られ、人格を建設する意志なく、唯不健全なる好奇心に欺かれて見込もなき小説家たらんと

のまた俳句の宗匠たらんとまたは虚榮心にほださるべし。或は寄席芝居の餓鬼と化せば自己の本分を忘れて演劇の空想に耽り、または醜猥淫靡なる小説書はがきなどに魂を奪はれ、貴重なる意志と時間とは爲めに葬らるれども、自ら之を惜しきとも

感せず、よしなき世間塵の談話に快を求めて心の慰とし、其の精神に於て想像病に罹れる時は空想に空想、疑心闇鬼を催し、或は杞憂神經を痛め、或は病的思想を淨

べ、狂的情念を溢しめ、空妄なる幻影を畫きて以て自ら心性を疲勞せしむるに至りては、想像病即ち空想餓鬼と化したるなり。其の他憎惡の念に支配せられて恐懼の心に侵されて始終仇敵を作り怪物を夢みるが如き、皆想像病の結果かくの如きは己に皆人格を損し人間として自我を失ひたるものと云ふべし。

此の想像病に打ち勝つ方法は他なし、克己を以て精神となし、制欲を以て好奇心を矯正し、活動以て空想を飛散せしめ、人の正直と親切とを信するの心を起し、己が胸中には自信自任の念を温め、先づ自ら助けよ天必ず汝を助けんと云ふ主義を實行すべし。

歡喜光

他人に對し感慙可憐なれ

身的勢力。自己の接觸する人々より信用を得んと願ふに更に其信用に背か、こらんとにつくす否の一語如何に必要なるか。斷然明言せよ。

他人を喜ばす。人は想像より情的の事務に屬せり。熱誠と禮儀とをとて待遇せらることを得る眞幸にしてすぐぐしき舉動は、少しく心を用ひば舉動作法を快活にして

他人の胸裡に快感の印象を興ふ。一生の事業成功は堅實なる才徳によるよりは快活なる舉動作法によること遙に多し。古來往々心情の善良深切なれども舉動の粗野無骨の爲め禍を作ることあり。

富まざるも幸福

古來最大幸福なる人々は多くは貧しかりき。ウオツウオハスと其の妹とは一週三十三リングの經費にて多年生活す。此の時期こそ此詩人の生涯中の幸福なりき。たとひ

富有らざるも共同の生活心と愛情にあらば家庭にて樂しき笑顔を造れ。是故の全世界にあらざるや。ランブル云はずや、「富豪にして健康ならんことを望まば貧民の如くに生活するを要す」と家庭の光、自然の美は永久の喜。然るに天に輝ける日光も觀る者の胸中に日光なくんば何かあらん。愛、崇敬の情は家庭に養はる。家族は文明の基礎。艱難辛若ならば其の報酬もまた益貴し。

他人に満足を與へよ

何人に對しても輝ける微笑と親切なる言語と愉快なる待遇を以てせよ。親愛なる人に對しては動作に於て愛情を示せ。

アイトルド卿曰く「如何に人を愛し人を憐むべきかの一事なり。彼等は自己の親愛せる人の過失に對しては寛容に過ぎ、甚しきは偏頗的庇護を交へて却つて其人を賊ふなり」。

談話の歡喜

若し家族の同情一致を望まば單に愛情と好意を有するのみにては足らず。自己の思想を吐露し他の思想を引出す所以の頓才と能力とを要す。他が若し汝を喜ばしめば汝彼を樂しましめよ。

人を誹責する場合

少くとも深切に語り聞かせよ、粗暴なる言語を發す勿れ。人を稱讚するには衆人稠坐の席にするとも人を誹責するにはなかれ。密室に於てせよ。密に語らば彼喜んで我が言を聴くべし。

誹責には己が態度を嚴肅にして遺憾の情の亂らざるべからず。出來得べくば憤怒不満の情を表に顯すべからず。汝若し怒らば口を開くに先だちて少くとも心を鎮めて考へよ。アーノルドは最も人の高尚なる修養の特徴として無限の寛容事情の酌量人の行為に對して嚴格なる判定を下すと同時に其の人自身に對しては慈悲深き判定を下すと。然り何人に對しても酌量せよ。汝若し事情を審にするあらば人を責めずして却つて之を憫むに至るべし。

愉快の源泉は努力

煩悶の一日は勞作の一週よりも身心を疲勞せしむ。煩悶は吾人の身體の組織を擾亂し、勞作は其の健康と秩序とを亂す。筋肉の行使は肉體の健康を來し、腦髓の行使は心の平和を來す。シャンタルト曰く、人は心の勞作によりて情の休息を保持し得らるべし。

苟くもなす所は徐々として之をなせ、心を仕事の中に折り入れよ。全力を擧げて研磨すべし。能力を使用せよ。然らざれば之を失ふに至らん。ヘチキヤは苟も着手せる事業に向つては全心全力を傾注して從事しよりて成功すと。

常に欣々然たれ

自己の胸襟を闊大にし自己の精神を愉快に導く歡喜の生活は人間の最幸なり。常に欣々然たれ。些少の事にも愉快を見出す程の快活なる人あり。彼は大不幸の中に慰安ある光明を見出し、いかなる失望の状態にも一種の新天地を開拓す。彼等が眼には一として愉快ならざるものなし。彼等は歡喜の性情を備ふ故なり。

歡喜光に充さるゝ者眼の燦然たる光を放つ。愉快の光輝快活の光輝歡喜の光輝同情の光輝是歡喜光の權化なり。いかに重大の負擔にも義務にも不平不満を示さず。欣々然とこの重擔を荷ひ、自己の精力を無益に消費するが如き愚を演ぜず男らしく之に努む。

現在の不幸に於ても將來の善事を認め。病中にも健康たり。困苦中にも矯正と規律を見出し、悲憂の中にも勇氣を鼓舞し、智能を發し、最良なる實際的活誠を求め其の心事を偉大にす。シエレミー、テラーは掠奪に遇ひて家を失ひ、家族を屋外に彷徨し財産を分散するの止むなきに至れり。されど毫も心を亂さず、泰然として曰く、予は公吏と暴漢の手に落ちたり、然も今果していかなる失望をなすべきか、予には向日月照し、妻女と友人の手に同情を寄するあり、又他の人も予を救濟せんとして盡瘁しつゝあるに於ておやと。

眼中の光輝。いかなる悲憂のあるも常に光彩美妙歡喜の煥發せる光輝の欠ぐなくば冷にも温め、苦にも慰め、悲みにも活氣を與ふ。

人の心情を訓練し快活に至らしめ、歡喜によつて事物の美點のみを捉ふ。此の決

心は人世の快のみに非ず、美善なる品性の一大保護なり。

最良の醫藥

歡喜光に精神を活動せしむる慈愛の友、忍耐の看護婦。

道徳的心理的健胃劑として尊むべきは歡喜光なり。ホール博士は患者に對して最良の醫藥は醫家の與ふる藥品に非ずして御身の心底に横はれる快活心樂天の思想にありと。またソロモン曰く快活心は藥品の如き効ありと。

歡喜光により業務より妙味を發見す

偉人が歡喜光にて常に満足を知り不平の念を起さず愉快の中に圍まれて失望落膽の情に打ち勝たたる、所以は自己の從事せる業務より快なる妙味を發見し之を樂しみ他くまで熱誠奮闘の念を以て事に當りたればなり。

フキルデルグは負債身體の薄弱幾多の事情の爲に不幸蹉躓失敗の中に陥りたれども且つ其の美なる快活心の一點だにも損したることなし。

習慣的樂觀。バーマーストン卿の行動二十年を通して間斷なく注視したる人が卿の人格を樂天思想に敍して曰く予はまだ一回だも彼の怒れる顔面を見たるなし。いかなる謬虛構に對しても潮大沈着歡喜の色を逸したるなしと。

樂天の要件。快活、歡喜寛大仁恕健全の美質を喪失せしめず、憤怒痛激の氣象と氷炭相入れず、愛情希望忍耐を根底とす。愛情は愛情を起し親切を産む。愛情は希望の光を放つ。他人に對して寛大眞實も仁恵も慈悲も之より發す。

草の中にも光輝を認め花卉の間にも日光あるを悟り得るものは此の美點を生ず。ペンザム曰く他人に對して貢獻する功績の分量に應じて自己の快樂と樂天の思想は常に豊富となりゆくものなり。そは親切を呼び起し一の幸福は他の幸福を湧起せしむる力あればなり。

親切の満足

他人に親切をして、彼が酬はざるのみに非ず反對の意志を以て迎ふるも自己の良心の満足を買ふに足るべく。自ら得々の色あり、無代價をもて親切の種子を蒔くが如き痛快は善行中の最良と數へらる。

歡喜光の忌みもの。他人に同情を寄せず、自愛のみを計り他人と社會のことに關して寸毫も肅粹することなきものは誰しも活動の根を損傷し快の生活を得難し。假りに成功するも何らの尊むべき畏敬すべきなし。

人生の活氣を缺き精神を消沈に至らしむるは自己の行爲を不自然に越むかむ。事横放恣偏見を固執する忌はしき伴侶のみ。青年にして此の弊に陥らば方に自家のみを中心として自家の心事のみを回想し自己の利益を欲し自己の放逸を満足しこれ氣儘の弊に外ならず。

萬難を安忍す

確乎たる信念あり、強健なる意思あり。天を怨まず、人を尤めず、いかなる苦にも安心す。徒らに精力を消耗するの愚をさとり闇黒の中にも希望の光に無限慰安を感じ奮然起ちて快復するの意氣壯なればなり。

ナポレオン一世はいかなる事情のもとにありても安眠することを得たり。いか様にも自ら其の思想を支配する能力を具へたればなり。見よ匹夫より起きて一度コルシカに遁れモスコに敗れウォルターに躓き一日も其の席暖ならず。然るに彼は平然たり。何人も平生此の用意ありて繁劇の間に閑を求むるの工夫ある者は何人にも其の體力精力を維持して大事を遂ぐ。

怒氣の害

怒氣は被害者も發者も多大の害を受く。怒氣をなしたる瞬間は其の精神最も不健全なる状態なり。智力も良心も全く掩はれ、堪ふべからざる不快の念催し肉體の不健康を招くに至る「怒りは一時の狂人なり」と。

怒氣の主な原因、肉體の病的状態に在り。精神上より見れば、確乎たる信念透明なる理性健全なる常識ありて、偶々一事の其の意に満たざるに際し他の眞意の那邊に存するかを看破する能はずして一隅に自己に惡意ありと解釋し、其の自負心の不健全に興奮する時、換言すれば腦の作用意思の羈絆を脱して盲動するの場合なり。

無智も怒氣の原因

理性に基かず、感情を以て判断す。事の是非を見るに及ばず。先づ他を非難し嘲罵

を以てす。斯く不健全なる精神の作用によりて出でたる言は恰も天を仰いで嘔するが如く自己を汚す。

激すれば激する程自己に對する損害多からむ。他を嘲罵するは却つて他の嘲罵を蒙る所以。其の結果は自己に歸す。怒氣は無智にして自負の念に驅らるればなり。精神の修養足らざればなり。其心を平靜ならんと欲せば須く怒氣を制せよ。怒を制せんには自負の念を去り他の眞意何に在るかを明察せよ。

ゲーテ曰く怒怒は愚者の心に宿れる有毒の瓦斯なりと。徒に怒氣を起し易き者は其の心常に不快にして健全なる活動の意氣なし。従ひて進歩なく成功なし。其の生を陰暗裡に送るの外なし。此の種の人に接すれば何人も不快の念に襲はるべし。其の家族は氷塊を抱きて生活するの思ひあるべし。寸時も快樂を受るなく自身も不幸の生涯なり。

此の徒樂むべきに苦しみ喜ぶべきに悲しみ信用すべきを疑ひ年を経るに隨ひて其の悪性は漸く増進し益々他の忌避する處となり。子女として斯る父を有する者は機會の到來するや一日も早く其の家庭外に遁れんことを思ふ。

不 斷 光

時間の浪費は後悔の基

イクレシナスチカス曰く「良心は高塔に置かれたる七人の見張番よりも警告する處多し」と

デカート處世の四格言に曰く、

一、人は己の教育せられたる法律と宗教とに身を委ねよ。

二、活動すべき場合には迅速に且つ自己最良の判断に従つて活動せよ。

三、己の願望を満足せしむるよりは寧ろ之を制限して幸福を求めよ。

四、眞理を捜求するを以て一生の務めとせよと

沙翁曰く、汝の望む所は汝の白刃を以て之を務むるよりは寧ろ汝の微笑をもて之を達するにあり。

時間の浪費は後悔の基。時間を浪費する忽ち、今日唯一度來たのみ。一度去りて復來らざるなり。時間は天の貴重なる賜の一にして一度之を失はば再び復し得べからず。時間を使用するに他日の後悔を胎す如き行爲あるべからず。

「餘りに遅れたり」斯くすることも出來しならんに「それは悲痛の言なり。時間は神よりの信託物なり。一秒一分と雖之を清算するの義務を有す。

勤勉は劣情を抑制す

努力は成功に必要欠く可からず道德的性格に向つて最も健全なる勢力を與ふるものなり。テラー曰く「必ず懶惰たる勿れ。汝の時間を充實に嚴肅に嚴酷にして有用なる職事をなせ。いかにとなれば精神の活動止み肉體の安逸を貪る時に際しては色情これらの空處に侵入し易く、健康にして安樂遊惰なる人の一度誘惑に襲はるゝことあらんか、到底清潔の徳を維持し難ければなり。而して職業の中肉體的勞働は最も有用にして、色情なり惡魔を驅逐するの効あり。

いかに時間を利用するか。吾人は全く何事をなすか。無意味に仕事をなすか。或は當に爲すべき事をなすかによりて一生を經過せしむるなり。吾人はいかにも時間の足らざるを嘆するも其の行を見るに恰も無限なる生涯の感あるが如し。人若し時間を節用せば其の成す處測ごべからざるものあるべし。出來得る限り能く賢く時間を利用することを務むべし。

人生成功の一大原因は正直にして堅實なる勞作に従ふの性格なり。第一大膽、自信力、堅忍不拔の精神は最後の勝利。該に出精は繁昌の基。働く犬は働かざる獅子に優ると。エマソン曰く「拂はるゝも拂はれざるもあらゆる時間に於て働けよ。然らば汝は報酬を遺るゝこと能はざらん。汝の仕事の優美なるを將た粗野なる小麥を栽培すると史詩を咏ずるとは問はず。苟も正直なる仕事をば己が良心の賞讃によりて爲すことならば汝の思想に汝の五感の上にも必ずや報酬を受くるを得。人は幾回失敗するも必ず最後の勝利をうべき天賦を有す」と。

敏速は勝ち急忙は敗る

怠惰は安息に非ず勞作にも倦み易し。然れども決して急ぐべからず。自然は決して

急がず。急ぐものは續かず。徐かに又休まず進めよ。人生の大秘決は決して急がず、決して躊躇せざるにあり。人は急がば時間を節用することを得べしと謂へど是誤解の甚しきなり。敏捷は間なり。忽々の間になしたるは叮嚀に事を成すに若かず。

勞作的に忽卒に不規則に勞作を作すは急がず迫らず徐ろに休まずに規律的に之をなすに比して途上疲困を生し遙かに骨を折るものなり

急忙は唯仕事其の者を害ふのみならずまた生命も損すべし。

無明と罪惡と苦惱とより救はれて光明の中に

宗教の意義は宇宙に唯一なる絶對的偉大なる神の力と衆生の信心との投合一致する處にあり。

人間には生死の苦惱あり。此の苦の原因は人々罪惡の源たる煩惱を具して、罪惡の新あるが故に生死の苦惱の火は盡ることなし。靈のことにつきては無明にて、自らの從來する處を知らず、死して趣く處を知らず、冥より冥にさまよふ凡夫なり。

然らばこれらの苦の解脱を求めんには絶對的偉大なる力を有する如來に歸命信賴するの外に途なし。

宗教は人生の冥を照す光明。

また人類を苦惱より救ひ出す力なり。

人は人生無明の中に生れ、冥より冥に入り、自らの從來する處を知らず、死の趣向する處を知らず冥より冥にさまよふ。之に對して此心の無明なる人生に一道の光明を與ふものは眞の宗教なり。人生八十年の旅びには悲惨のこと苦惱多し。こゝに於て大なる安慰を與ふは即ち如來の大慈悲なり。

人には肉慾我慾等の意志、自分勝手の惡質ありて煩惱の爲に罪惡を作り人格を墮落せしむ。

人の惡質を脱却して聖靈態に意志を靈化せしむるものは如來の光なり。宗教とは一言に云へば絶對的偉大なる如來の光明と衆生心との投合一致し衆生の心の無明と罪惡と苦惱とより救はれて光明の中に聖き心の生活を得せしむるものなり。

大正十二年五月二十日印刷同二十三日發行
 誌代年六冊登圓貳拾錢 年十二冊貳圓
 編輯兼發行人 山崎 辨 成
 印刷 東京京橋區本八丁堀一丁目十五番地 熊太郎
 發行所 東京小石川區水道端二丁目四十四番地 ミオヤのひかり社
 振替東京四九三三八番